九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース　第42号

2013年1月発行・東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木TEL 042-473-9489

http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/

日本国憲法　第９条

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

戦争ぜったいいやだから！　日本国憲法９条を守り、生かす

今こそ「護憲」草の根運動を

―年頭にあたって―

東久留米「九条の会」副代表・矢倉久泰

年頭の辞は「明けましておめでとうございます」と書き出すのが常識ですが、私は今年は「おめでとうございます」とは書きたくありません。だって、改憲を主張する安倍自民党が政権に復帰し、国民の圧倒的支持で維持してきた平和憲法を、本気で変えようとしているからです。いやーな年になりそうです。

自民党は憲法をどう変えたいのか。「九条の樹」39号（二〇一二年六月発行）にも書いたことですが、自民党が二〇一二年四月に発表した「日本国憲法改正草案」によりますと、①天皇を元首にする、②自衛隊を国防軍にする、③外部からの攻撃や内乱、大規模な災害などの緊急事態が発生したとき、首相は国民の自由や権利、財産などに制限を加えることができる、④国民の自由や権利には責任や義務を伴い、公益及び公の秩序に反してはならない、などとしています。「公」には「国家」も含むことに注意する必要があります。

また、同盟国が攻撃を受けたら応戦に参加できる集団的自衛権を持つべきだと主張しています。これは憲法を「解釈」すれば可能と言うのです。このように平和憲法を変えて、「自衛のための」戦争ができる国にしようというのが、自民党の考えです。

自民党は一九五五年の結党以来、「自主憲法の制定」を、党の使命としてきました。「現行憲法はアメリカ占領軍に押し付けられたものだから」という理由です。しかし、憲法制定過程を見ますと、ＧＨＱ（連合国軍総司令部）が作成した新憲法草案について、日本政府はＧＨＱと議論したうえで、一部修正を加え、新憲法案を国会に提出、国会の議決を経て成立したものです。その新憲法には、国民主権、基本的人権の尊重、戦争放棄・平和主義の原則が盛り込まれており、世界に誇れる内容になっているのです。

しかし、安倍自民党はこの憲法が気に食わず改憲を断行しようとしています。国会が憲法改定を発議するには衆参両議員の三分の二以上の賛成が必要（憲法九六条）ですが、これを二分の一に改定して改憲をしやすくするために、安倍首相は、まずこの九六条の改定を目論んでいるのです。

今回の衆議院選挙で自民党は圧勝し、石原慎太郎氏率いる日本維新の会と組めば、三分の二は確保できたことになります。安倍首相は参議院でも三分の二を確保するべく、今夏の参議院選挙に全力を挙げる構えです。そのために「夏までは安全運転で行きます」と言い、改憲を封印して経済政策で有権者の支持を取り付ける作戦です。

私たちはストップ・ザ・改憲のために、参院選に向けて、今こそ、「護憲力」を一層高め、政党を超えて広範な国民に平和憲法の大切さを広める取り組みが必要です。そのためには多くの市民に呼びかけて、憲法について国内外の現実課題に即した学習を深める必要があると思います。

提言

民意を反映する政治制度に

―ギリシャ・アメリカから学ぶ―

佐野 正利（東久留米「九条の会」副代表）

民主党などが衆議院議員の定数削減に執念をもやしています。「国民は消費税の苦痛を、議員は身を切る」というのですが。事実は、財界人が設立した「新しい日本をつくる国民会議（21世紀臨調）」がマニフェストを作り各政党に売り込んだとき、『衆議院は小選挙区制に』と提言。また経済同友会が02年10月に発表した提言にも、柱の一つに『選挙制度は比例代表は無くし、小選挙区制にする』とあり、民主党がこれにとびついたのです。政治の改造とあわせて憲法改悪、消費税大増税をやる、と財界が大っぴらに政治に介入しはじめたのです。「身を切ると国民に約束」といいますが、民主党が財界に約束しただけなのです。

いまどき民主主義に逆行するこんな政治体制を現代人は決して許さないでしょう。

ギリシャの民主主義

古代ギリシャに数百あったといわれる都市国家スパルタやアテナイでは紀元前から民主政治が確立されてきました。

スパルタにおいては、紀元前8世紀に属するとされる「民衆に決議件あるべし」と記した言葉（神のことば、神託）があり、主権在民を表明した世界最古のものとされています。

60歳以上の徳性のすぐれた人が市民により選出されて長老会を結成、そこで国家の運営や法律に関する議案を作成しこれを民会に提出します。民会は20歳以上の全スパルタ市民より成る最高決議機関で、長老会作成の議案の採否を決定します。議案は民会の決議を経て初めて発効します。この長老会、民会の制度が国制の基本的な骨組みとしてBC９世紀のころに早くも形成されています。

アテナイ（今のアテネ付近）においては、BC６世紀に国制の改革があり、18歳以上の男子平民によって地域から選出された５００人から成る「評議会」が構成され共和政治が行われました。これは村落自治、地方自治を出発点として樹立された国制でした。この行政村落を地区と言いました。（demosには地域のほか民衆の意もあります）したがってデモクラシーの語源は（demos+kratia〈支配〉地域の支配の意となり、「民衆の勝利」をも意味します。）市民全体に主権の存する政体を言います。BC４６２年以降のアテナイで最も徹底されました。役人の大部分は抽選で選ばれ任期は1年、再選不可でした。

下って古代ローマにおいては、政治機構の一つに元老院があり、共和政期にはあらゆる分野で公職者に対して助言を行ない大きな影響力を行使しました。公職を経験した３００人ほどの議員で構成されていました。

このように代議制による民主政治は人類社会の知恵として古代からうち立てられてきたのであり、未来の社会においても、より民主的に継承・発展されるべき価値ある遺産なのです。

アメリカの議会

また、いまテレビなどで（テレビ朝日の古舘キャスターやコメンテータの寺島実郎日本総研会長ら）「アメリカの国会議員

は日本より少ないから日本は削減せよ」と発言する人がいます。しかしアメリカ合衆国は独自な政治体制ですから単純な比較はおかしいのです。

アメリカ大陸には13個所に別個の植民地があり、イギリスの圧制に抗して１７７４年独立戦争に突入、13植民地は76年13の共和国としてそれぞれ独立しました。

アメリカには現在、一つの連邦政府、50の州政府があり、数万の地方政府など、多くの種類の政府があります。日本語で州と訳されているstateは一般には国家を意味することばです。実際に州は国家に近い存在です。独立した諸邦は三権分立の共和政体を整え民主化を進めました。多くの邦の立法部では、多額の負債をかかえた小農民を中心とした債務者層が多数派を形成し、紙幣の増刷や借金返済猶予を求める政策を実現しはじめました。しかし、これらの措置は経済の安定を求める人々と―債権者層に衝撃を与えました。それゆえ彼らの中から新しい統治機構を模索する人びとが登場して来、俎上にのぼったのが13の邦の上に主権を持つまったく新しい統一国家を樹立することでした。

こうして１７８７年憲法制定会議が開かれました。邦の上に国を作る必要があるのかなどと議論も多くあり、新しくできる決定機関＝連邦議会の構成や議員数などをめぐっても各邦は対立しました。各邦は連邦議会の権限を強めたくないので議員の数を抑えているのです。現在は50州（邦）ですから連邦議会の上院は１００名（各州２名ずつ）。下院は５３８名が人口により規定されて各州に配分されます。

現在の連邦政府は大きくなり11の省がありその長が大統領ですが、建国初期の政府は国務、財務、国防（国防省の職員は１０８名）部の三省からなる小規模な政府でした。20世紀の初頭には８省の組織に拡大していましたが、連邦政府自体は大きくないのです。50の州（邦）政府の権限は大きく、それぞれ独立の憲法を持つ主権国家ですから日常生活の基本ルール―刑法・民法・商法など司法権もかなりな程度持っています。消費税を取る州や所得税を取らない州などもあります。州政府は国防や外交・貨幣の鋳造・郵政・道路など連邦の憲法に揚げた項目だけを連邦政府に委ねています。ですから連邦国家の議員数は少なくし、50邦の共和国の議員数は上・下両院で合計７３８２もいるのです。

またアメリカの司法システムは連邦裁判所と州裁判所との二本建てとなっており、それぞれ独自に運営されています。邦の中の地方自治体は司法権もかなり持っており各邦にある最高裁から地方の判事までを合計すると２８０００名もおりますが、連邦政府の地裁から最高裁までの判事は８５３名しかいません。

日本の議員は英、仏など欧州と較べても少ないのです。衆院３００議席は１８９０年に国会を開設した時の議員数です。国も当時より豊かになり、人口も３倍以上で20歳以上は皆有権者です。千人程度の議員を送り出しても当然ではないでしょうか。

削減を言う危険な企てを許すことはできません。

人口100万人当たりの議員定数は、１位アイスランド210人、２位ルクセンブルク120人、３位エストニア77.7人、イギリス・イタリア10.4人、フランス9.1人、ドイツ・スペイン・トルコ7.5人、韓国6.2人、日本3.7人、アメリカ1.4人であり、日本はOECD加盟国34ヶ国中33位となっている。従って、日本の国会議員定数は人口に対して非常に少ない部類に入る。(2011年)

◆シリーズ私の戦争体験

「去っていった友」

神谷礼子（八幡町）

米国はサイパンを制圧してから日本への爆撃が可能になった。以後、本土二百都市を空爆、死者五十五万人を出す。東京は終戦まで約百回の空襲を受け、特に三月十日には死者十万人と原爆と並ぶ大惨事となった。大阪、横浜、福井、新潟、山梨、金沢等々、多くの犠牲を出した。

私の生家は京都、金閣寺の近くで薬局を営んでいた。京都は空襲は免れたが飢餓の都市であった。配給は遅配、欠配が続き親類が近い人とか農家にコネのある人は助かったが、親類は福井で遠く、闇物資も中々手に入らなかった。食物をめぐって殺人も何件かあった。薬局を訪ねる人は少なくなってしまった。大阪大空襲では、金閣寺のほうから、大阪が夜を徹して燃えているのが見えた。

私は当時、小学校三年生、クラスの委員を命じられていたが、生徒の中にまだ話をしたことない大阪からの疎開生徒がいた。その生徒が私の前に立った。「昨日家族全員八人が焼け死んだ」。ハッと胸をつかれたが茫然として友の顔を見上げた。これだけ言うと友はすぐ去った。よく勉強の出来る静かな生徒であった。

次の日その友はまた私の前に立った。「自分ひとりで、叔父さんたちの隣の部屋でご飯を食べる事になった」。私はすぐに分かった。これは叔父さん一家がヤミで手に入れた物をこの友に食べさせたくないためだと。私はどうすることも出来ず、友の顔を見上げた。次の日も学友は私の前に立った。「明日、学校を辞めて工場へ行く事になった」。その時も私は何も出来ず、ただ友の顔を見上げるばかりだった。思えば私も祖母も母も相ついで亡くなり、父の体も思わしくなく風前の灯火であった。その日は、他の友も話したこともないのに私の前に来て「明日芸者に売られる」と言って去った。この時も茫然として何も言えなかった。

次の日、友たちはクラスから永遠に消えたのであった。

強引な命令で決められた運命に理不尽なものを感じ、しかしどこにも訴える所もなく、私のところへ近づき短い言葉を残して去っていった。そのことを思うと胸が痛くなるのである。

◆お知らせ

東久留米キリスト者九条の会講演会

原発も戦争もいらない

「今、私たちにできること」

講師：鈴木伶子さん

（平和を実現するキリスト者ネット）

2013年4月29日（月・祝）参加費未定

成美教育文化会館　大研修室

お問い合わせ：042-473-4496（アコルデ）

《平和を考える本》

『ちえちゃんのおはじき』

山口節子・作／大畑いくの・絵

（佼成出版社）

ともおばあちゃんは、何十年かぶりに神楽坂の赤城神社にやってきた。昔、仲よしのちえちゃんと一緒に埋めたおはじきを掘り出そうと思ったのだが、目印の大銀杏がなくなっている。それでも土を掘り返していくと、焼けただれたおはじきの固まりが現われた。

それを手にしたとたん、タイムスリップして、やってきたのは太平洋戦争のまっ只中。焼夷弾が炸裂して火の海と化した神楽殿で踊っているのは、幼い姿のちえちゃん。彼女は一瞬にして、神楽殿や大銀杏と共に炎の中に消えた。

おばあちゃんは何が起ったかを悟り、戦争の悲惨さを忘れてはならないと改めて思った。（高田）

「核の傷」上映会

12月9日(日)に東久留米「九条の会」主催の「核の傷」上映会が開催されました。入場者は250名、若い方やお子様と一緒に鑑賞された方もおり、内部被曝についての関心の高さが伺われました。感想も多数寄せられましたが、紙面の都合で抜粋して掲載しました。チケット販売にご協力いただきました個人、団体の皆さまありがとうございました。

アンケートより

● 小5の息子も拝見させていただきました。著作は数冊所持。子どもともよく読んでおりましたが、肥田先生の御姿、声に現時代を生きる上での励ましをいただきました。東久留米では女川のがれき受入、処理もはじまっています。市民としてできることを考え、行動していきたいと思います。

● 今、すべての日本人に鑑賞してほしい映画でした。自主上映でも、草の根運動ですぐに大きなうねりで広げていきたいと強く感じました。共にがんばりましょう。

● 「はだしのゲン」を読んで、原ばくのこわさを知っていましたが、ひばく者のえいぞうがこわかったです。ぼくは、原子力発電をなくしたいと思います。

● ご高齢でも、精力的に信念を以て活動を継続されている肥田先生の行動は、とても素晴らしく自分と比べ物にならないと感じましたが、少しずつでも継続していくことの大切さは自分の胸に深く残りました。知らないことはまだまだ沢山あるので、興味を持って取り組みたいと思いました。

● 先生の「自分を大切にすること」という言葉がとても印象的でした。原発がない社会になるよう、自分の家族や子どもたちのためにも、自分なりにできることを考えて行動し、生きていきたいです。

● 内部被曝の恐ろしさを、何の認識もなく安全神話を作ろうとしている人たちを許してはならない。人間は機械ではなく、生きて、活きているということを、多くの人たちに常識として伝えなければ…と。自然の放射能の話を持ち出して、だから安全などは言わせてはならない。私たちも学習しなくてはいけませんね、だまされないためにも。

● 私欲の為に多くの方が実験として命を失っている、それを隠蔽していた事（今も続いている）は、許されない事だ。そして今日この会場にこれから社会を作っていく人たちがいなかった事が信じがたい事実だ。

● 原爆投下時のアメリカの傲慢さ、日本の人権意識の低さを目の当たりにし、今また、日本は同じことを繰り返しているように思う。

● 一生懸命活動されてらっしゃるお医者様のことを初めて知りました。自由のようでそうでない、日本の裏側も垣間見ることができました。憲法を守る党に入れます。

● 妻に強く薦められて来ましたが、深く考えるところがありました。これからも考えていきたいと思います。実は、もっと集まる人は少ないと思っていましたので、東久留米にも問題意識を持っている人が多いのだと勇気をもらったように感じました。

● 最後のあいさつ(斉藤さん)すばらしかった。東久留米に明るい光が・・・

● 「内部被曝」の本質を学べることができよかったです。日本のなかで放射線から逃れることができないということを教えられ、ガクゼンとしました。

● 内部被曝について、最近は報道されなくなってきましたが、何年か経ってから、体の具合が悪くなるという事ですので、恐ろしいと思いました。肥田先生の頑張りに、映画を観て感動しました。

●　肥田先生の、身をもったすばらしい映像と内容に、普段の甘えた生活を恥じます。しかし、これからは本気で生きたいです。82才㊛

●　有意義な映画鑑賞でした。久しく選挙に行っておらず、「次こそは」と心に決めてはいましたが、気持ちを新たにしました。いただいた政党一覧のチラシは、とても重宝しました。５００円で、こんな有意義な機会を提供して頂き、本当にコスパの高い催しでした。

●　「自分の命は自分で守る」その人権意識がとても大事だという事を再認識しました。原発ゼロ、これからあらためてがんばっていきたいです。

●　内部被曝の危険性を改めて教えられました。健康は自らつくる。日が昇ると働き、日没で寝る生活こそが、健康をつくる、大事だと思うのですが、なかなか。核廃絶運動の大切さを身にしみて感じました。

●　肥田先生は、パワフルな方です。アメリカが原爆を落とした理由がはっきり語られていました。ソ連への脅威＋原爆の実験。広島、長崎の日本人が人体実験の対象にされていたことを改めて知り、衝撃を受けました。

●　今日は思っていたより多くの方々が見に来られていたので、少し安心しました。でも、もっと若い人が見ないといけないのではないかと思いました。

●　「核兵器をなくすためにできることを、本腰を入れて取り組むこと」という言葉が印象に残っています。「原発による内部ヒバク、１年後２年後にあらわれる」注意深く生きていきたいと思います。またやってください

●　今一度自分の生き方を見直していかなくてはいけない義務も思いました。肥田先生の人生に感服です。

●　原爆を二つも落とされて、いまだに原発をという政治家たちには、今さらながらあきれます。今回の選挙は大事です。

●　日本に安全な所はない。本当にそうなんだなーと実感。脱原発に力をそそぎたいと思います。

●　ほんとうにすごい方ですね。ヒバク者、放射能、原発のことだけでなく、生きること、生き抜くことのお話まで、とても、見れてよかったです。もっとたくさんの方に見てもらいたいです。

●　内部被曝について、知らないことが多すぎました。一般のマスコミももっともっと取り上げるべきです。

●　核兵器をなくす事の大切さ、広げる事の大切さ、毎日駅頭で活動しているので、これからもやっていく事が大事だと思いました。最後にお話しした原発をなくす会の方とても良かったです。

●　選挙前にタイムリーでした。なぜ個人個人が、強い者に対して黙り、弱肉強食の社会を維持したいのか、どの学者も研究していない（もしかしたら岸田秀、三浦雅士は例外かも）どうかそういう視点もとりあげて。

●　とても良い映画でした。福島県伊達郡ですが、福島の方でもこの映画、上映させてやりたいと思います。

●　若い人に見て欲しいです。今日会場を見渡しても年配者ばかり。ドイツの哲学者の言葉はうなずけます。原爆投下の国が原発を持ったことが大きな間違いです。「原爆の平和利用」という言葉にだまされた。国民がバカでした。もっと我々国民も真剣に考えなければ…。今度の選挙はきちんと自分の意見を考え投票しなければと肝に銘じました。

●　数年～数十年後に健康被害（ガンなど）出てくる事は聞いていましたが、先生の話しからさらに実感がわきました。かわいい孫が健やかに生きられる社会にしたいと思います。